慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	台湾における日本企業の経営
Sub Title	
Author	王雪華(Ou, Setsuka) 古川公成
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1994
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1994年度経営学 第1063号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001994-1063

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

No. 1063

学生氏名　王　雪華

主査　古川　公成
副査　小野桂之介
山根　節

所属　古川　公成　研究室

台湾における日本企業の経営

この研究の目的は、大きく分けて3つある。まず第一に、日本企業による台湾への直接投資が、時代環境の変化に応じてどのように変わってきたかを明らかにすること。第二に、台湾における投資環境の変化が、現地日系企業の経営にどのような影響及ぼしたかを考察すること。そして第三に、1990年代半ばに差し掛かる時点で、在台日系企業が抱えている問題を明らかにし、問題解決の方向を考察することである。

広範囲な文献調査に基づいて、まず、日本企業による対台直接投資の実体を把握するため、時代別、企業別に、日本企業の対台投資の時系列分析を行った。また、日本と台湾の経済的な関係の変遷を年表にまとめた。現在の新たな経営環境を反映した具体的な経営問題を具体的に把握するため、在台日系企業7社の現地経営幹部へのインタビューも行った。

特に1985年以降、台湾の経済は急速に発展し、またたくまに、世界最大の外貨保有残高を抱える有数の貿易国になった。しかし、その急成長を可能にした経済基盤は、ほぼ50年におよぶ戦前の、日本による台湾統治の時期に整備されている。

1985年以降、台湾経済の発展は、人件費の上昇、地価の高騰、そして、産業構造の変化をもたらした。この間、日本企業にとっての在台日系企業の位置づけは、初期の、日本市場のための生産拠点から、日本企業のための生産拠点にシフトし、現地市場の確保への変化を経て、いよいよ世界市場の構造変化を睨んでの競争と協調の拠点に変わりつつある。

在台日系企業は、今後、より高付加価値の製品への移行、中国を中心とした後進国からの部品調達、およびアジア全域を対象にした分業体制の構築という、3つの柱を中心にした製品市場戦略への移行を迫られている。